



Nihongo Network News

2001.7.13発行

No. 32

TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1メールボックスNo.4
東京ボランティア・市民活動センター気付 ☎03-3235-1171

TNVNでは'97年4月よりインターネットのホームページを開設。これまでこのサイト上で、TNVNの活動や日本語ボランティアについてさまざまな情報提供をしてきました。インターネットやパソコン通信の普及率は日々拡大しており、4年前の開設当時に比較するとHPにアクセスできる方々も飛躍的に増大していることと思います。そこで、今回は日頃の活動にお役立ていただくために、あらためてTNVNのホームページをご紹介します。

すでにご覧いただいた方も多いかと思いますが、TNVNのホームページは次のような構成になっています。

INFORMATION

ホームページの新着情報や更新履歴をご案内。

CONTENTS

◆はじめに

日本語ボランティアとは、TNVNとは、TNVNの会員・活動などについて掲載。

日本語ボランティアやTNVNのオリエンテーションとしてお読みください。

◆NewsLetterより

TNVNニュースレター「日本語ネットワークニュース」より、事務局からのお知らせ「事務局インフォメーション」、ボランティア日本語教室活動や国際交流活動にかかわるイベント・情報等の「BULLETIN BOARD」の記事を転載。

日本語ボランティアをこれからはじめたい人のための日本語ボランティア入門講習会のスケジュールもこちらをご参照ください。

◆掲示板

日本語ボランティアや国際交流に関する情報を会員・非会員にかかわらず自由に書きこんでいただけるページ。ボランティア募集・学習者募集・地域でのイベントなどの情報がありましたら、こちらに書きこんでください。

◆ボランティア日本語教室ガイド

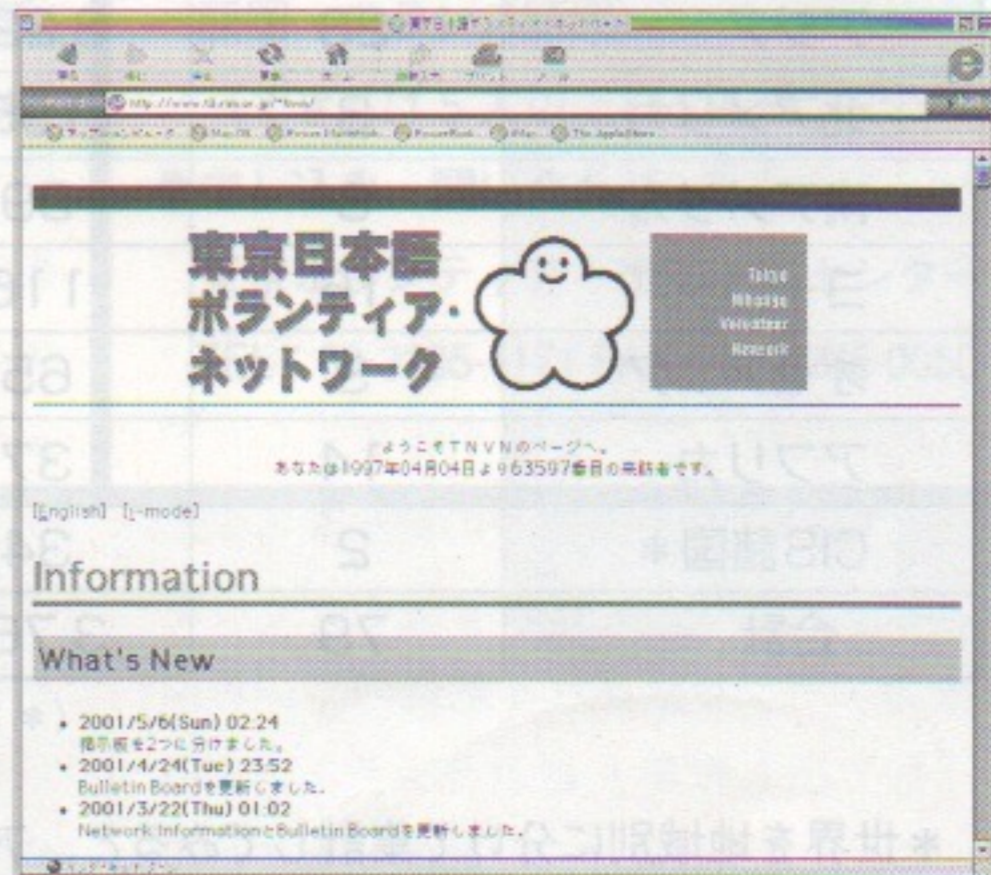
ガイドブック「ボランティア日本語教室ガイド 東京 2000」に掲載されて

いる活動情報を掲載。グループ名・路線別(JR・私鉄・地下鉄)・地域別(区・市)・開催曜日別・開催時間帯別(午前・午後・夜間)などによってスピーディに検索できます。学習者やボランティア希望者の教室探しにご活用ください。

(なお、教室ガイドのページの情報は、各団体が公開を希望する項目だけが掲載されています。とくにボランティア団体の連絡先は個人宅であることが多いため、連絡先が掲載されていない団体についてはTNVN事務局気付けでご連絡をお願いいたします)

※HP上のボランティア日本語教室ガイドの情報を更新するために、正会員の皆様には情報掲載に関するアンケートをお願いいたしました。まだ事務局までご返送いただけていない団体は、速やかにご返送くださるようお願いいたします。

日本語ボランティアに TNVNホームページの 情報を活用



データに見る ボランティア日本語教室 PART 4

「ボランティア日本語教室ガイド 東京 2000」 アンケートから

アンケートの集計状況

◆回答数/団体数：137 教室数：157

昨年7月にTNVNが発行した「ボランティア日本語教室ガイド 東京 2000」(以下「ガイド2000」)では、TNVN会員団体だけでなく、都内全域のボランティア日本語教室に対してアンケート調査を実施。東京23区と国立市・国分寺市・福生市・三鷹市・武蔵野市・武蔵村山市の6市を除く20市(当時)のボランティア日本語教室、137団体157教室から回答を得ることができました。

各日本語教室の活動情報は「ガイド2000」に掲載されていますが、地域別のデータの集計結果を報告します。

構成

都内を下記の5地域に分け、地域毎のデータを集計してみました。

区分	区市名
区-1	足立・荒川・江戸川・葛飾・江東・墨田・台東・中央の各区
区-2	板橋・北・新宿・杉並・豊島・中野・練馬・文京の各区
区-3	大田・品川・渋谷・世田谷・千代田・港・目黒の各区
市-1	稲城・清瀬・小金井・小平・狛江・調布・田無・東久留米・東村山・府中・保谷の各市
市-2	あきる野・青梅・立川・多摩・八王子・羽村・東大和・日野・町田の各市

国籍別学習者数

	中国	韓国	フィリピン	台湾	タイ	アメリカ	インドネシア	オーストラリア	カナダ	ブラジル
区-1	273	204	99	39	52	13	6	10	10	13
区-2	440	418	60	80	35	20	14	7	10	5
区-3	129	90	26	29	11	27	20	14	13	5
市-1	285	95	54	40	14	22	16	12	14	2
市-2	212	27	59	18	34	35	17	10	6	27
計	1,339	834	298	206	146	117	73	53	53	52
比率(%)	35.5	22.1	7.9	5.5	3.8	3.1	1.9	1.4	1.4	1.4

地域別による学習者数

	国数	学習者数	比率
アジア	28	3,223	85.5%
北アメリカ	8	195	5.2%
南アメリカ	8	99	2.6%
ヨーロッパ	16	116	3.1%
オセアニア	3	65	1.7%
アフリカ	14	37	1.0%
CIS諸国*	2	34	0.9%
合計	79	3,769	

(*：独立国家共同体ロシア等)

*世界を地域別に分けて集計してみると、アジアからの学習者が圧倒的な1位で、2位の北アメリカ5%を大きく引きはなしています。

*日本語教室が開かれている地域によって多少の違いはみられるものの、1位の中国と2位の韓国が圧倒的な多数を占めています。続いて、フィリピン、台湾、タイ、アメリカという順位もほぼ同じようです。

*上位5カ国(中国・韓国・フィリピン・台湾・タイ)のアジア諸国で全体の4分の3(74.8%)を占めて、続いてアメリカ・インドネシア・オーストラリア・カナダ・ブラジルと続いています。

*上記の表にありませんが、10位のブラジル以降、11~20位はインド・イラン・イギリス・マレーシア・ロシア・ベトナム・ミャンマー・バングラディシュ・スリランカ・ペルーとなっています。



ボランティア日本語教室での学習は、日本語学校と違って学習者のニーズもさまざま。そのため既存のテキストや教授法通りにはいかないことも多く、学習者に合わせた工夫も必要です。

ここでは、日本語学習者を支援するときに、役立つ教材、理解を早めたアイデア、上達を助けるコツなど、ボランティアの経験から生まれた工夫やアイデアをご提案します。

ボランティアからの提案

マンガを使って話す練習をしよう

— 中上級レベルのために —

小山 恵美子 / 町田日本語の会 (町田市)

初級レベルを修了すると読む教材が中心となり、会話練習はどうしてもフリートークになりがちです。ボランティアの場合はそれも楽しいのですが、きちんと話したり説明したりしたいという学習者も意外と多いようです。

そこで、マンガを教材に使用して、中上級レベルの話す練習をしています。

マンガは現代日本の代表的な文化のひとつであり、日本を知るためにもたいへん役立つものです。日本語がかなりできる人であれば若者のマンガを通して読んでいくのも良いのですが、擬声語・擬態語・流行語・省略語がかなり多いので、ここではごく一般的な言葉を使って日常生活を描いている『サザエさん』を使ってみました。

◆対象者

次のような学習者に適していると思います。

- * 初級の文法は一応勉強したが、それらをどうやって使うかわからない。
- * 会話から勉強したので話せるが、きちんとは話せない。
- * わかっているが、複文を使って話せない。
- * 受け答えばかりで、なにかをまとめて話すことがない。

◆最終目標

4コママンガのストーリーを複文を使って正しく話せること。

◆具体的な進め方

『サザエさん』の4コママンガを使ってマンガの絵を見るだけだと思わぬことを考える学習者があるので、事前の説明は必要です。

①『サザエさん』についての説明

登場人物の関係や性格を説明する (ここで家族関係の言い方の復習や、性格関連の語彙を学習できる)

②場面についての説明

ここで簡単な情景描写から、場面を推察することなどを話し合える。

③具体的な質問

ここで新しい語彙や表現、日本の文化・習慣などを学習できる。絵を見ていろいろな質問をすることによって会話もでき、実際に使うことで語彙を覚え、誤解していたことなども明らかになる。

【例】腕立て伏せってなに？

落ちていものはなにに使うもの？
お母さんの様子は？

① サザエさんとマスオさんが腕立て伏せをしている。

② サザエ「まだまだまだ、ガンバって」
マスオ「もうダメだ」

③ 二人がダウンしたところへ、カツオがやって来る。
(カツオは包丁とかなづちを持っている)

④ 買い物から帰ったお母さんが、倒れている二人のそばに包丁とかなづちが置いてあるのを見つけてびっくりする。

マンガの内容を理解し、表現を覚えたら、ストーリーを話してもらいます。(下線はポイント)

【一例】

ある日、サザエさん夫婦は二人でなかよく励ましあいながら、腕立て伏せをしていました。がんばりすぎて、二人はばてて倒れてしまいました。そこにいたずら好きなカツオくんが来て、ニヤニヤしながら二人のそばに包丁とかなづちをそっと置いていきましたが、二人はぜんぜん気づかず、倒れてハーハー言っていました。

買い物から帰ってきたお母さんはそれを見てびっくりして、びっくりかえりそうになってしまいました。サザエさん夫婦がけんかをして殺しあってしまったのかと早とちりしてしまったのです。

<投稿のお願い>

このページでは学習支援ボランティアの皆様からの投稿をお待ちしています。日頃の活動で培った日本語学習のノウハウやヒントなどをTNVN事務局ニュースレター編集までお送りください。



「オアシス」を目指して

本所賀川記念館・すみだユニオン日本語教室

松本 祥子／墨田区

私どもの日本語教室は、1993年に法律で永住外国人の指紋押捺が廃止された後、もともとその反対運動をしていた人々が、このまま解散するのはどうかと立ち上げ今日に至ったものです。

当初はアジア・アフリカから働きに来た人々がほとんどでしたが、その後は中国帰国者や日本人の配偶者も増え、その呼び寄せ家族の人々も多くなりました。現在はそれに加え、ワーキングホリデイを利用して来日する若者やビジネスマンなど、子どもから大人まで実に様々な人が集っています。

ボランティア側も、ボランティアとしてできることをしたいという気持ちを尊重し、いつでも誰でも参加できるようになっています。毎月1回のミーティングでは、ボランティア自身の悩みや学習者からの相談ごと等をボランティアがひとり抱え込まないよう、より良い活動ができるよう話し合います。

また、したいことや教えたことを一方的に押しつけるのではなく、学習者一人一人の要望を大切にしています。土曜日の夜の教室は、クリスマスとお正月以外は休まず続け、日本語学習のみならず、時には花火鑑賞会やクリスマス会、会員持ちよりのポットラックパーティー等もして交流を深めています。その時は、現在は継続的に教室に来られない人たちも大勢集まってきて、大いに楽しんでます。

言葉の学習はとても大切ですが、同じ国の人との情報交換や他の国の人との出会いや交流も大事にし、ボランティアへの悩みごとやもめごとの相談などが気軽にできる「オアシス」のような場であるよう心掛けています。

行政と日本語ボランティアの乖離 グループWA

大槻 一枝／足立区

「どうか息子に日本語を教えてください。数学や理科は大丈夫なのですが、国語の授業にはとてもついて行けないんです」

日曜のある日、中国残留孤児の母親が涙ながらに訴えてきました。

足立区では、外国人子女指導講師制度を採用し、外国人子女が少しでも早く、日本語や日本文化に馴染めるよう、こうした子女の在籍する学校に、日本語講師を派遣して、日本語の指導を行っています。しかし、その指導期間は3ヶ月と極端に短く、期間終了後は、放っておかれるのが現状です。

グループWAでは、これらの見放された外国人子女をできるかぎり受け入れるようにしております。日本語ができないだけでイジメられたり、日本を嫌いになって帰国したりしないよう、心から願わずにはられません。毎日でも日本語を教えてほしい、というのが彼らの切実な願いなのです。

ところが、今年度からこれまで使用していた土曜教室の会場が、区民ギャラリーとなり、使えなくなってしまいました。教育研究所が本来の目的である教育の場から、趣味の展示場になってしまったのです。そのため、喫茶店を教室代わりに勉強したり、会場を転々とするようになってしまいました。

これは、行政の日本語教育に対する怠慢・無理解か、それとも学校の無能を示しているのでしょうか。単に行政サイドや学校当局とボランティアとの認識の相違で済ませられる問題ではないと思いますが、皆さんいかがでしょうか。

私がいちばん好きな食べ物

羅智映／韓国（ともだち／足立区）

結局ママはマサヨちゃんのママに事情を説明してその“粉”をわけてもらいました。私が日本へ来ていちばん早くスーパーで買って来たものはこの“フリカケ”でした。

今まで、食欲がないとき、私は白いごはんの上に“フリカケ”をかけて食べます。この間、遊びに日本へ来た妹も高い日本の料理より“フリカケごはん”をよく食べました。なぜなら、私と共にマサヨちゃんのうちで“フリカケ”を食べた思い出があるからです。

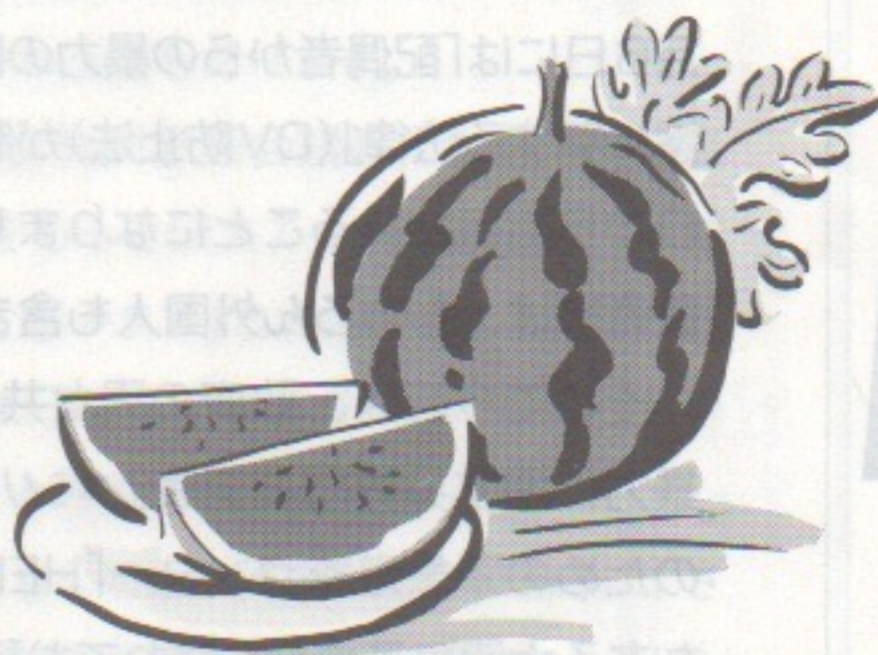
私は幼いとき、フィリピンに住んだことがあります。私のとなりにマサヨという日本人友達が住みました。私はときどき“マサヨちゃん”のうちに食事をして、いろんな日本のたべものを食べてみました。この中で私がいちばん気に入った物は“粉”でした。こんな甘くて色がきれいな“粉”をごはんといっしょに食べることは生まれてはじめてでした。“これがあれば、ごはんはすすむ！”と考えて、ママにスーパーで買ってくれると頼みました。でもママが買って来た物はなんとアイスクリムのトピングでした。

や毎年行われるイベントなどに参加すると同時に、親切な先生達と親しくなる事はもちろん、ほかの国から来た外国人と友達になる事もできた。

今は大忙でよく行く事ができないけど、日本に来て初めて自分一人で行った＜早稲田日本語奉仕園日本語サークル＞、今だ私の心の中にそこはとても暖かい空間として残っている。遅くなったけど、＜早稲田日本語奉仕園日本語サークル＞のすべての方々に感謝します。

2000年11月8日水曜日！私が＜早稲田日本語奉仕園日本語サークル＞で日本語の勉強を始めた日だ。その日の日記には、2時間ぐらい話した新しい日本の経験について、笑顔を浮かべたまま書いたメモがある。＜日本に来てこんなに日本語をたくさん使った日は今日が初めだ。日本人と話したのがとても嬉しかった。短い時間もない2時間も。もう、何か出口を見つけた感じだ。＞

私は日本語の準備をほとんどしないで日本に来た。それで、学校の授業やテレビを見る事も一生懸命しようと努力した。でも、何か満たされない感じがした。実質的に、日本人の友達ができて、彼らと話すチャンスが少ない事、それが問題だった。そんな問題点を抱えている時に、私は＜早稲田日本語奉仕園日本語サークル＞に出会った。そこは私にとって、とても大切な空間だった。単純な日本語の学習ではなく、授業の後のお茶を飲む時間



日本語をたくさん使った日

千芸仙／韓国（早稲田奉仕園日本語サークル／新宿区）

MIFA(まちだ地域国際交流協会)は、1993年4月にスタートしたので、現在で約8年のキャリアです。大原会長はじめ先輩諸氏のお陰で、現在会員140名、学習者130名を擁し、日本語学習支援、全員集合の交歓パーティー、各種の文化交流イベント、バザー、野外リクリエーション活動などを行っています。外国人との共生を理念に掲げた国際感覚に多くの方々が共鳴し、一緒に何かをしたいという情熱に駆られているからにほかなりません。

私も96年に入会し、専ら日本語学習を支援するつもりでしたが、次第に学習支援にとどまらず、これを通じて文化交流をするのだと実感してきました。そして学習者の成長が楽しみに

なりました。来る度に明るくなり、日本語の口数も増え、こんなリストラ時代でも就職・転職していきました。自力でさらに勉強して能力試験にパスしたり、学習者同士のカップル誕生もありました。

会員や支援者は交流・支援を続ける一方、いろいろな講習会や勉強会をもっています。日本に留学中の大学教授や専門学校の教師などの方々の指導で、既得の学習支援手法をブラッシュアップ。さらに、出身業界や趣味を語る異業種交流会、新しい仲間のための入門講習会も開いています。明後年の十周年には何をしようかな？いいアイデアがありましたら、ぜひお教えてください。

昨今のMIFA

長尾勝人／まちだ地域国際交流協会(町田市)

女性のための緊急避難センター「HELP」

●連絡先TEL：03-3368-8855

国籍や在留資格を問わずDVの被害女性をサポート

ディレクター 大津恵子さん



最近、「DV」という言葉を以前よりもよく耳にするようになりました。「DV」とは「Domestic Violence」の略で「配偶者や恋人など親しい異性から受ける暴力」を指す言葉

で、総理府が行った初の全国調査(2000年2月発表)では、20人に1人の女性が「命の危険を感じる程の暴力を受けたことがある」と回答。また、この4月6日には「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV防止法)が制定され、10月13日から施行されることになりました。この法律の対象者には、もちろん外国人も含まれています。

そこで今回は、政府の男女共同参画会議「女性の暴力に関する専門調査会」メンバーでもあり、女性のための緊急避難センター「HELP」ディレクターでもある大津恵子さんを訪ねてお話をうかがいました。

【緊急避難センター「HELP」とは？】

さまざまな人権侵害や暴力にさらされた女性たちに、安全な宿泊と自分自身を取り戻すための時間や機会(シェルター)を提供する場、それが「HELP」です。同様の民間シェルターは全国に約30ほど存在しますが、そのなかでも外国人女性を積極的に迎え入れているシェルターはそう多くないのが実状です。「HELP」の大きな特徴の一つは、タイ人やフィリピン人、そしてアメリカ人スタッフの存在にあります。母語での相談にも対応してもらえということが、故郷を離れた地で傷つき疲れた女性たちにとってどれだけ安心なものか想像に難くないでしょう。

また、1986年4月に施設を開設した当初は「アジアから働きに来た女性の緊急避難センター」としての役割

が大きかったため、在留資格等に関する問題解決のためのノウハウも充実。「HELP」は日本キリスト教婦人矯風会100周年記念事業として開設されましたが、当初はいわゆる「じゃぱゆきさん」が多く、架空の借金を背負い性産業に従事させられていた女性を多く受け入れていたそうです。付け加えるならば、減少傾向にあるとはいえ、今だにそういった人身売買被害者の避難は絶えていないということです。

さらに、原則として一部屋に一人もしくは一家族、という個人の時空間を尊重した部屋割りや、子どもの遊ぶ場が施設内にあるということも「HELP」の大きな特徴の一つといえるでしょう。

【援助ではなく自立支援を】

「HELP」には、女性であれば国籍や在留資格の有無を問わず避難することができます。子ども連れの場合も、男児のみ10才までと制限されていますが、女児であれば年齢制限はありません。滞在期間は原則として2週間ですが、それも致し方ない理由がある場合はその限りではないそうです。けれども一つだけ、「HELP」へ避難するにあたってとても大事な条件は、「自分から避難したいと申し出ること」。自分の意志ではなく周囲の人に言われて避難するようでは結局自立できず、加害者であったはずの夫のもとへ戻ってしまうことが多いからだそうです。「ここは一方的な援助ではなく、自立支援をする場です。たとえ言葉が上手く通じなくてもいいから自分自身の声で伝えること、自分自身がそういう気持ちになること、それが大切なのです」と大津さん。

「HELP」に来て最初の1週間は「自分はもう安全である」ということを実感してもらうため、そして今後のことを考えてもらうための期間。専門のカウンセラーや子どもの遊び相手の学生ボランティアもいて、まずは自らを元気づけるための1週間となります。そして2週

目からは、自力で仕事や部屋を探すための1週間となります。つまり「HELP」側からは情報を提供するだけで直接的な手助けはほとんどなく、自分自身の力で生活していくための課題を体験学習的に学ぶ期間、となっているのです。アパートを探すことなども自分で、最初は不安でいっぱいだった人も、自分でどんどん契約等をこなすうちにすっかり自信を持つようになるとのこと。現在のところその課題の達成率はほぼ100パーセントだそうで、その事実はまた、次に自立してゆく女性たちにとっての大きな励みともなっているようです。

【日本語だけではなく習慣なども】

「HELP」から自立していった女性のうち、日本人女性はたいていの場合連絡してくることがありませんが、外国人女性の場合は、困った時には頻りにシェルターへ連絡をしてきます。頼れる場所や人を失った孤立無援状態の外国人にとっては、「HELP」が唯一の心のよりどころとなるのでしょう。

「福祉事務所の職員や保健婦などとのつながりはあっても、それは地域に根ざしたつながりとは言い難いものです。もっと地域の人々と積極的に関わられるようになれば、どれだけ気持ちが楽になれることか」大津さんは続けます。「日本語が不十分ということでトラブルが引き起こされることもあります。でも、言葉ができればそれで大丈夫という訳でもなく、習慣なども含めて学ばなければ日本で自活することは難しいでしょう。そのためにも、地域に根ざした日本語ボランティアのような場はとても重要だと思います」

また、DV被害は「家庭内のちょっとしたもめごと」として片付けられてしまうことも多く、顔や手足等を避けた洋服で隠れる部分にのみ危害を加えられることも多いため、一般にはわかりにくいとされています。そ

れ以外にも、言葉による暴力、外出させない、お金を渡さない、性行為を強制するなど、表面には出にくい被害も多く、暴力の形態は実にさまざま。だからこそ、普段から「シェルターの存在」等の情報を伝達しておくことが重要となってくるそうです。シェルターにたどり着くことのできた人々はごく一部の人だった、という見方もできるほど、現実には厳しい状況となっているからです。

ちなみに、2000年度のシェルター利用者295名中117名(うち子ども47名)は外国の方だったそうで、ざっと計算するだけでも5日に1人は外国人女性がシェルターに避難したということになります。

【暴力のない未来のために】

DVは犯罪であるという認識を深く浸透させるためにも、シェルター等DV被害者を支援する機関を広く認知させるためにも、そして何より、現にいま悩み苦しんでいる人々を救うためにも、DV防止法の制定はうれしいニュースと言えるでしょう。けれども、3年後の見直し条項も盛り込まれたこの法律には、在留資格のない外国人女性の人権はおろそかにされている等、まだまだ十分とは言いかねる面もあります。

「だからこそ、男女共同参画会議等でも最も弱い立場の外国人の視点をもっと伝えていきたいし、それが私の役割でもあると思います」と大津さん。「虐待されたりDVを見て育った子どもが同じサイクルに陥らないようにしてあげることも大切」とも。

「誰であれ孤立させないことが大事。そして同時に、さまざまな人がそれぞれの立場で問題を訴えていくことも大事」という言葉もたいへん印象深く、また、シェルターの全てが女性によって運営され男子禁制の場となっていること、そうせざるをえないくらい傷ついた人々が多く存在するということが衝撃的な現実でした。

◎DV防止法の内容についてはこちらのURLをご覧ください。

<http://www8.cao.go.jp/danjyo/index.html>

●HELPを利用するには？

まずはじめに電話でご相談ください。

Tel.03-3368-8855 (日本語・英語・タイ語・タガログ語での相談に応じます)

●相談時間

日本語・英語	月～土曜日	10～17時
タイ語	月～金曜日	10～17時
タガログ語	月～土曜日	9～15時

●緊急宿泊利用

滞在期間：原則として2週間

宿泊費：一泊(3食付き) 3500円
(子ども：2500円)

※費用については福祉事務所に相談できます。
ビザが切れて所持金のない方はご相談ください。

「ご説明させていただきます」

「正しい日本語」とは何か

日本大学助教授 福田知行

よく国会などで「それではご説明させていただきます」という前置きで答弁が行われ、それが普通の会話でも使われるようになりました。人によって「～させていただく」という表現が多用されることに嫌悪感を持つ人もいます。

そもそも、この表現は「動詞+させる+いただく+ます」のように分析できます。そして、この場合の「させる」は使役形ですが、意味は「～するのを許可する」という意味になります。「遊ばせてやった」のように「～させてやる」といえば、許可を与えるという意味になります。また、「いただく」は「もらう」の謙譲語ですから、「～させていただく」は、自分がへりくだって許可をもらうという意味になります。

なぜこの表現に嫌悪感を持つかという、特に相手の許可を得ようと思っているわけではないのに、形式だけ許可を得ているかのようなふるまいをする“偽善性”が感じられるからだと思われまます。単に「では、ご説明します」で十分敬意は通じるのではないかということなのです。

これは「敬語」の問題でもありますが、基本的に“敬意”を表す原理の一つとして、“許可求め表現”というものがあります。これは「自分の行動」に対する「決定権を相手」に委ね、「自分が利益」を受けてありがたい」と表明するという原理です(蒲谷宏・川口義一・坂本恵共著『敬語表現』、大修館書店1998、第Ⅲ章)。たとえば、「ここでタバコを吸ってもいいですか」という文が持つ表現意図がそれに当たります。

つまり、「自分がタバコを吸う」ことに対して「相手に許可を求め」、「自分がタバコを吸えば」ありがたい、ということです。

タバコの場合は意図するところが明白ですが、「ご説明させていただきます」の場合は利益を受ける人がはっきりしないという点が問題なのです。つまり、本当は聞き手(相手)が利益を受けることがわかっているのに、自分が利益を受けるかのような表現になっており、それが“偽善性”につながると感じる人がいるわけです。このような表現を「敬語表現」(1998)では“あたかも表現”と呼んでいます。

日本語の表現をよく観察してみると、上で述べたように少し複雑な仕組みがあり、一見すると誤解を受けるような表現がたくさんあります。上で述べた例以外にも、日本人はどうして感謝するとき「すみません」と謝るのか、また、贈り物をするとき「つまらないものですが」と過度に謙遜するのか、逆に贈り物をされたときに「これは、これは」と驚いたような表現をするのか、さらに、言い訳を言うときにはなぜ「だから」というより「なので」と言った方がやわらかな言い方になるのか、ちょっと考えただけではわからない不可解な表現によくぶつかることがあります。

今回は、上記のように「正しい日本語」なのに細かく見てみると問題となるような表現をいくつか取り上げて観察してみたいと思います。



『日本語フォーラム2001』
が開催されました。



日本語フォーラム実行委員会主催の“日本語フォーラム2001”が5月13日(日)に東京ボランティア・市民活動センターで開催されました。当日の出席者は57名(メール参加を含めて70名。実行委員会参加者は110名)。

このフォーラムは、各地のボランティ

ア日本語教室の問題を解決するため、多文化・多言語教育の充実と公的保障を目指し、宣言と行動計画にまとめるために開催されたものです。昨春より3回におよぶプレフォーラムとEメール等による意見交換、当日の協議を経て「東京宣言」が採択されました。また、関係機関およ

び自らを含めた全ての住民の取り組むべきことを求めた行動計画について協議しました。行動計画が承認された後、宣言・行動計画をPRし、行政への働きかけ等を実施します。

宣言・行動計画は、(1)多文化・多言語社会の創造 (2)日本語学習に対する公的保障 (3)外国人の子どもの教育保障の3項目で構成されています。詳しくは、事務局(mr.yoko@lycos.ne.jp)までお問い合わせください。

日本の常識

◎第15回 花火

花火は日本の夏の代表的な風物詩。

各地で花火大会が行われ、夜空にあ

ざやかな大輪の華を咲かせ、その音とも

に私たちを魅了します。また、日本人の心

とも言える「おもちゃ花火」も情緒ある楽

しみて忘れられません。



です。黒色火薬に発色剤・発音剤などを混ぜて筒や玉に詰めたもの。点火して破裂・燃焼させ、光・色・爆音などを楽しみます。通信にも用いたそうです。

しかし、現在ではこれらを作れる職人さんが少なくなったとのこと。昔は親子や近所の人たちが集まって縁側や路地の縁台で線香花火をして、夏の夜を楽しんだものです。ルール・マナーを忘れずに、安全には十分注意して花火を楽しんでみてはいかがでしょうか。



各地の花火大会

7月下旬から8月中旬、全国各地で地方色豊かな花火大会が開かれます。打上花火や仕掛花火の鮮やかな光・色・音を楽しみに、この夏は花火大会に出かけてみてはいかがでしょうか。

有名な隅田川花火大会は、古く江戸時代・享保18年(1733年)に始まった両国の川開きがルーツと言われる歴史のある花火大会です。毎年約100万人近くの見物客がその華やかな花火に拍手を送っています。

また花火だけでなく、浴衣姿で見物や隅田川をうめる屋形船も風情を感じさせるものです。情報

誌やインターネットで花火大会を調べて、出かけてみましょう。

おもちゃ花火の楽しみ

一般の人が楽しめるおもちゃ花火は「火薬類取締法」で定められた26種類の花火があり、手持ち花火(線香・クラッカー・手持ち回転・スキ・吹き出し・絵型)と、手に持たない花火(噴出・打上・乱玉・地上回転・ロケット・回転飛翔・蛇・音・煙など)とさまざまです。

花火の原料は火薬、花火の色は炎色反応を利用したもので、江戸時代外国から入ったいろいろな薬品を使うようになり発展してきたもの

NETWORK INFORMATION

日本語ボランティア入門講習会

これから日本語ボランティアを始めたい方のための「日本語ボランティア入門講習会」は、日本語ボランティアに役立つ基礎知識の講座です。これまでに日本語ボランティアの経験がないという方は、活動のオリエンテーションとしてぜひ受講してください。どの回からでも受講可能で、全4回を受講された方には修了証をさしあげます。

◆日時

- 7月13日(金) 午後2～4時
- 7月27日(金) 午後6～8時
- 8月10日(金) 午後2～4時
- 8月24日(金) 午後6～8時
- 9月14日(金) 午後2～4時
- 9月28日(金) 午後6～8時
- 10月12日(金) 午後2～4時
- 10月26日(金) 午後6～8時

◆テーマ

- (7月) 日本語ボランティアとは？
- (8月) 日本語再発見
- (9月) 学習者はどのような人たちか？
- (10月) 日本語学習をどのように支援するか？

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター 会議室
飯田橋 セントラルプラザ 10階
(JR・地下鉄 飯田橋駅下車 徒歩1分)
※都合によりフロアが変更になる場合には、掲示板等でご案内します。

◆参加費

1回 600円 (TNVN会員は300円)

◆参加申込み

直接、会場へおこしてください。

TNVNの活動情報へ パソコンでアクセス！

インターネットのTNVN活動情報にアクセスして、日頃の活動にお役立てください。また、TNVNへの要望や意見などもお待ちしております。

<TNVNホームページ>

TNVNの講習会など活動情報や教室ガイドの情報も掲載しています。

◆URL : <http://www.t3.rim.or.jp/~tnvn/>

◆MAIL ID : tnvn@t3.rim.or.jp

※なお、上記のホームページにボランティア募集やイベント参加者募集などの情報掲載をご希望の方は、事務局までご連絡ください。

TNVNへの入会を 希望する方は…

TNVNの会員として入会を希望される方は、まずTNVN事務局までTNVN活動・入会案内を請求してください。(活動・入会案内のみを希望する場合は送料として80円切手、ニュースレターと活動・入会案内の場合は90円切手を同封の上、郵便にてお申し込みください)

TNVNの会員は、日本語ボランティア活動をしている団体が正会員、日本語ボランティア活動に関心のある個人が協力会員となります。入会される場合は、申し込み用紙に必要事項を記入してTNVN事務局まで郵送またはFAXし、あわせて会費をお振り込みください。

会員の方には毎回TNVNニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ会員価格で参加できます。

◆会費/正会員 年会費 3,000円

協力会員 年会費 2,000円

◆会費払込み先

郵便振替口座番号 00100-1-719259

(通信欄に「年会費」と記入)

日本語ボランティア相談

日本語ボランティア相談窓口では、日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にTNVNのベテランスタッフがおこたえします。お気軽にご利用ください。

◆日時/毎週金曜日 午後2～7時

◆会場/東京ボランティア・市民活動センター

◆電話でご確認の上、おこしてください。

TEL : 03-3235-1171 (呼出し)

連絡先の変更等は、郵便かFAXで

新年度を迎え、団体の代表や連絡先(TNVNからの郵便物の宛先)が変更になった団体も多いことと思います。正会員(団体)や協力会員(個人)の方で住所変更のあった場合、また団体の代表の連絡先などが変更になった場合は、TNVN事務局まで郵便やFAXでお知らせください。また、TNVNを退会される場合も書面にて通知していただくようお願いいたします。

年会費の納入はお済みですか？

TNVNも新年度の活動をスタートしていますが、会員の皆様は新年度の会費納入はお済みでしょうか。

TNVNは日本語ボランティア団体の民間のネットワークとして、自治体等からの援助もなく、会員よりの会費収入とボランティアスタッフの労力によって活動が支えられています。その事情をご理解いただき、すみやかな会費納入にご協力ください。

*会員の皆様にはすでに振り込み用紙をお送りしていますが、紛失等で再度ご希望の場合は事務局までご連絡ください。

TNVN宛て郵便物にはメールボックスナンバーのご記入を！

TNVN事務局は、毎週金曜日午後2～7時まで、東京ボランティア・市民活動センターで活動をしています。

TNVNへのご連絡・お問い合わせ等は、なるべく郵便かFAXをお願いします。なお、TNVN宛ての郵便物・FAXには、右記のメールボックスナンバーのご記入をお願いいたします。

〒162-0823 新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター 気付

メールボックス No. 4

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

TEL : 03-3235-1171 (呼出し/金曜日午後のみ)

FAX : 03-3235-0050

国語と日本語の連携を考える会

第8回研究会のお知らせ

◆テーマ/思考と表現を結ぶ言語教育

◆日時/2001年7月28日(土)

15:00~18:00

◆会場/早稲田大学22号館8階第一会議室

◆プログラム

◎開会 (15:00)

◎話題1 (15:10~15:30)

日本人大学生の「日本語」教育

◎話題2 (15:30~15:50)

‘Critical Thinking’ と国語教育

◎質疑応答・自由討論(16:00~17:50)

◎閉会 (18:00)

◆呼びかけ人

竹長吉正 (埼玉大学教育学部)

細川英雄 (早稲田大学日本語教育研究科)

詳しくは下記のHPをご覧ください。

<http://faculty.web.waseda.ac.jp/hosokawa/>

第10回全国ボランティア フェスティバルかながわ

◆日時/2001年9月23日(日)

◆会場/川崎市国際交流センター

東急東横線 元住吉駅下車

◆テーマ/「多文化共生とコミュニティ」

◆プログラム

1.かながわ大会特別企画 9:30~12:00

シンポジウム

「ボランティアと多文化共生」

2.テーマ別のつどい

①家庭料理をかこんで多文化交流

0:30~13:30

②識字学級から見える外国人市民と日本

13:00~15:00

③すこやかに育てられる地域づくりを

めざして 13:00~15:00

3.交流のひろば 10:00~15:00

日本語実習を受けるアルバイト募集

◆募集条件

◎外国人

◎日本語能力が初級~中級レベル

(学習時間150~400時間)

◎授業を休まない人

◆仕事内容

◎初級クラスの授業に参加後、感想・意見を言う。

◆スケジュール

①水道橋校 (JR水道橋駅から徒歩3分)

7月16日~9月10日の毎週月曜日

18:30~20:30 (全8回)

②新宿校 (JR新宿駅から徒歩12分)

7月21日~9月22日の毎週土曜日

16:00~18:30 (全9回)

1クラスは5~10人で、日本語教師養成講座で勉強している学生が教えます。

◆報酬

1授業(2時間)につき3,000円(交通費込)

◆応募方法

LEC東京リーガルマインド

日本語教育事業部

TEL:03-5572-7541 FAX:03-3227-5410

e-mail:nihongo@lec-jp.com

東京ドームのプロ野球に 外国人をご招待

今年も日本ハムファイターズのご好意により、外国人の方々をプロ野球の試合にご招待します。

◆日時/2001年9月16日(日)

日本ハム戦ディゲーム

◆会場/東京ドーム JR・地下鉄 水道橋駅下車

◆応募方法

団体名と希望人数(上限1団体10人まで)を書いて、下記まで80円切手を添付した返信用封筒を同封して申し込んでください。

〒187-0024 小平市たかの台3-11

ラビオリ アレン山崎

文化庁日本語教育大会、開催

◆日時/2001年8月7日(シンポジウム)

8日(研究協議会)

(この他、28日は福岡大会)

◆会場

8月7日:文部科学省分館虎ノ門ホール

地下鉄 虎ノ門駅下車

8月8日:昭和女子大学 研究館

東急田園都市線 三軒茶屋駅下車

◆プログラム

8月7日

シンポジウム(午前)

◎高度情報化に対応した日本語教育のあり方

シンポジウム(午後)

◎地域日本語学習支援活動の充実を考える

8月8日 13:00 開会、趣旨説明、分科会

◆参加申し込み

7日のシンポジウムは事前申し込み不要。ただし定員を超過した場合は入場できないこともあります。

8日分科会は所定の申し込み用紙を郵送・FAXで提出。申し込み締切:7月27日(金)必着

◆問い合わせ

文化庁文化語部国語課日本語教育企画係

TEL:03-3581-4211(内線2840)

FAX:03-3591-0426

日本の童謡を外国人に教えます

日本の童謡を英語または仏語を使って外国の方々に教えたいと望んでいます。国立音楽大学の声楽科を卒業後、個人指導・リサイタル・コンサートに出演しています。

◆対象

日本の童謡に関心のある外国の方(英語圏・フランス語圏)

(できれば5人以上のグループで)

◆申し込み・問い合わせ

東京ボランティア・市民活動センター

TEL:03-3235-1171 FAX:03-3235-0050

BULLETIN BOARD

「日本語ボランティア」という名称が適切かどうかなどと仲間と議論していたのは、20年近く前のことです。その当時、私は生意気にも日本語ボランティア活動は、草の根の平和運動であり、多くの人に関わってほしいとある雑誌に書きました。バブル崩壊のおかげか、私の願いが叶い、各地にボランティア日本語教室が増えました。しかしながら、それぞれが孤立無援なのを知って、ネットワークを作らなければと、東京都の募集した平和論文にそのことを書きました。

しかし、「機が熟す」という言葉の意味を実感として感じたのは、TNVNが発足した時です。一人で飛び回っていても何も動かなかったのに、世の中が必要とした時、まさしく「山は動いた」のです。当時

はまだ「日本語ボランティア」の資質に疑問を持つ声も多く、「日本語ボランティア」は「アマチュア日本語教師」と批判されて「ボランティアのプロ」だと応酬した仲間がいたことを懐かしく思い出します。平和論文の内容には関心を示してくれなかった東京都も、TNVNには顔を向けてくれるようになりました。TNVNがスタートしてから7年半、「日本語ボランティア」は、それなりに社会に認識され、地域の一つのしくみとして機能し始めています。

今日、中国の女性から「日本人はどうしてボランティアをするのか。他人のために尽くす心に頭が下がる」と言われて、「楽しいから」と答えながらも勇気づけられました。

(林川 玲子/TNVN副代表)

SPECIAL THANKS

★女性のための緊急避難センター「HELP」
 快く取材に応じていただきました。

WELCOME!
 新入会員のご紹介

◆協力会員(個人)

西山 博子、清水 紀子、山内 眞理

(敬称略)

※2001年7月5日現在の会員数は、正会員67団体、協力会員89名、賛助会員8です。

訂正とお詫び

日本語ネットワークニュース31号の「地域の日本語ボランティア事情～江戸川区発」のなかに下記の誤りがありました。関係者にお詫びして、訂正いたします。

「江戸川区の初めての日本語教室はクリーンパレスと西葛西図書館に開設」とありますが、江戸川区ではそれ以前にTNVN会員である江戸川ユニオン日本語教室が91年1月から活動を開始しています。また、「江戸川区では6カ所の日本語教室が活動」とあるのは江戸川にほんごボランティア連絡会に所属している団体数で、江戸川区全体では現在7つのボランティア教室が活動しています。

編集後記

●ボランティア日本語教室ではそろそろ夏休みに入る団体も多いことと思います。花火大会や夏祭など楽しいイベントも満載のこの時期、学習者のみなさんにも日本の夏を楽しんでいただきたいと思います。



レイアウト/鶴田 環恵

編集/上野 悦子、大久保 澄子、
 甲斐 武子、梶村 勝利、床呂 英一、
 林川 玲子、前田 恭子、山縣 みつる

地域の日本語ボランティア事情

清瀬市発

清瀬市では、平成8年から毎年この時期に日本語ボランティア養成講座が行われます。今年は6月5日から7月10日までの毎週火曜日夜(19:00～21:00)6回シリーズで実施されました。この講座は、市内在住・在勤外国人の日本語学習支援ボランティアを確保するため、教育委員会が市民対象に行うもの。修了者は、ボランティア団体の清瀬市国際交流会会員となり、常設活動の日本語教室で活躍しています。

日本語ボランティアは、火・木・金のいずれかに登録して、主婦や留学生など学習者と1対1で学習を行うのが基本スタイル。また、市内小学校の帰国子女で日本語能力アップが急がれる児童の、いわゆる「取り出し授業」にボランティアが協力することもあります。清瀬市もごたぶ

んにもれず、各種分野のボランティア活動がさかんで、それぞれがタテ方向の連携による成果を高めています。市内のこれら活動をヨコに結ぶネットワークはまだ確立していません。たとえば、災害発生時を想定すると、日頃の情報交換や共同訓練などが行われれば、一旦緩急のおりダイナミックな対応が可能と思われます。清瀬市では「市民活動支援センター」を来年度から発足させるため、その開設準備委員会会議を重ねています(委員は主要団体と市民代表で構成)。清瀬市国際交流会からも代表が参加しているので、このネットワークができれば日本語ボランティアはさらに活動の場を広げていくことになるかもしれません。

前田 貢(清瀬市国際交流会日本語教室)